

経営効率化の取り組み結果

1. 経費削減・抑制対策

(千円)

項目	目標額	取り組み状況	
診療材料の集約化 と購入額の削減	790,000千円×5% (19年度決算ベース) =39,000千円	薬品 21,900千円 材料 21,839千円 給食 1,686千円 =45,425千円	○
ジェネリック医薬品導 入率アップ	35品目中20品目へ 51,000千円→38,000千円 =13,000千円	=1,968千円 21年度 9品目変更済 22年度 5品目変更済 購入上位薬品にジェネリック対象薬が無い 使用量が少ない場合は効果なし	×
放射線フィルムレス化	一般撮影 30,000枚 7,200千円 CT・MRI 40,000枚 10,800千円 =18,000千円	一般撮影 36,751枚 8,820千円 CT・MRI 46,206枚 12,568千円 =21,388千円	○
委託料の削減	年間 350,000千円×3% =10,000千円	19年対比 3.1%減 =16,167千円	○
病衣の廃止	削減額(人件費) =6,000千円	=6,000千円 看護助手2名削減 3月から派遣の看護助手雇用 費用約160万円	○
計	86,000千円	90,948千円	○

経営効率化の取り組み結果

2. 収入増加・確保対策

(千円)

項 目	目 標 額	取 り 組 み 状 況	
病・診、病・病の連携	入院 2 人/日×365 日×32 千円 = 24,000 千円 外来 3 人/日×245 日×8 千円 = 6,000 千円	入院 21 年度 59,435 人 22 年度 67,041 人 外来 114,968 人 112,091 人 =1,751 千円 (地域連携退院指導料、介護支援連携指導料等)	○
未収金対策	法的手段(支払督促) = 1,000 千円	1 件 = 0 千円 1 件 公判中	△
DPC の適正コーディング	4,000 千円×12 ヶ月 = 48,000 千円	マイナスコーディング 2,330,943 点改善 = 87,351 千円	○
薬剤管理指導料の強化	増分 130 件/月×3,400 円×12 月 = 5,300 千円	増分 200 件/月×3,400 円×12 月 = 8,160 千円	○
栄養管理実施加算の強化	栄養管理実施加算 100%をめざす 8,700 千円 - 2,300 千円 (30%) = 6,400 千円	入院患者の 30→77.4%へ 47.4%UP 67,041 人×0.474×130 円 = 4,131 千円	△
特別食加算	76 円×1,000 食増×12 月 = 1,000 千円	76 円×1,724 食増×12 月 = 1,572 千円	○
診療報酬の査定減対策	29 億円×0.01%(改善) = 300 千円	29 億円×0.03%(悪化) 0.09%→0.12%へ = 0 千円	×

項 目	目 標 額	取 り 組 み 状 況	
適正な入院指導	入院 4 人/日×365 日×32 千円 = 50,000 千円	入院 20 年度 64,189 人 22 年度 67,041 人 2,852 人 × 32 千円 = 91,264 千円	○
リハビリオーダーの増	1,800 円×4 単位/日×4 人×240 日 = 7,000 千円	1,800 円×0.6 単位/日×4 人×240 日 = 1,000 千円	×
リハビリ計画の増	月 1 回 3,000 円 (入院 3 人増・外来 14 人増)×12 月 = 600 千円	月 1 回 3,000 円 (入院 23 人増・外来 16 人増)×12 月 = 1,400 千円	○
放射線フィルムレス化	一般撮影 19,000 件 11,000 千円 CT・MRI 7,000 件 8,400 千円 = 20,000 千円	一般撮影 19,246 件 11,548 千円 CT・MRI 7,705 件 9,246 千円 = 20,794 千円	○
ドッグの定員増	火・水・木 1 日 2 人→3 人 240 人増×25,900 円 = 6,000 千円	20 年度 延 677 人 22 年度 延 834 人 157 人増 = 5,656 千円	△
個室料アップ	料金 1.5 倍 及び減免の精査 利用率アップ 9,000 千円 2,000 千円 = 11,000 千円	= 3,485 千円 昨年に比べ病床利用率は高くなったものの、個室料の減免率が高い（小児科のある病院は高い）ため、これ以上の個室料アップは望めない。	×
計	186,600 千円	226,564 千円	○